

ネパール・ルンビニ地域教育支援プロジェクト

活動報告書

日本の教育モデルを活用した教職員・児童生徒への探究型教育支援

提出先：ネパール政府教育省関係機関／ルンビニ州教育関係機関／各地方自治体教育担

当部局

提出団体：特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

実施地域：ネパール連邦民主共和国 ルンビニ州 ルパンデヒ郡および周辺地域

主な実施自治体：Omsatiya Rural Municipality、Rohini Rural Municipality ほか

実施期間：2026年5月30日～2026年6月5日

実施者：

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

代表理事 中村雄一

事務局長 中村里英



1. 報告書概要

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクトは、2026年5月30日から6月5日にかけて、ネパール・ルンビニ州ルパンデヒ郡を中心とする地域において、学校教育支援活動を実施した。

本活動は、ネパール政府教育関係者、地方自治体、学校、教職員、地域関係者の協力のもと、日本の教育モデルを活用し、児童生徒および教職員に対して、学ぶことの面白さ、科学的思考、ものづくり、防災、衛生、平和、人権、国際理解を体験的に伝えることを目的として実施したものである。

今回の活動では、地域の公立学校、基礎学校、中等学校、ムスリム系学校・マドラサ等を訪問し、複数の授業を実施した。授業では、日本の学校で児童生徒が作成した教材や、身近な素材を活用した科学教材を用い、低コストで再現可能な探究型授業を展開した。

活動全体を通じて、児童生徒は「学びは面白い」「身の回りに科学がある」「学ぶことで自分たちの国を豊かにできる」という実感を得た。また、教職員に対しては、高価なICT機器や特別な設備がなくても、教材の工夫と授業設計によって、子どもたちの意欲を引き出す教育が可能であることを示した。

本活動は、政権交代後、教育の充実に力を入れようとしているネパールにおいて、日本の戦後復興や防災教育、ものづくり教育、探究型教育の知見を共有し、今後のネパール教育の発展に資する実践例となった。

なかよし学園は、今後もルンビニ地域を中心に、ネパールの教育機関・行政機関と連携し、継続的な教育支援活動を行っていく。

2. 実施団体概要

2.1 団体名

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

2.2 設立

2007年 任意団体として活動開始

2019年 NPO 法人化

2.3 代表者

代表理事 中村雄一

2.4 所在地

日本国 千葉県松戸市

2.5 ミッション

教育を通じて世界の平和をつくる。

なかよし学園は、世界各国の学習貧困地域、紛争影響地域、被災地域、難民地域などにおいて、教育支援、平和教育、防災教育、保健衛生教育、食糧支援、職業訓練、社会的事業開発等を行っている。

活動の中心にある考え方は、次の理念である。

- ・「**LOVE OTHERS for YOURSELF**」
- ・「**チョーク一本で世界を平和に**」
- ・「**教育は世界を平和にする最も強力な力である**」

2.6 主な活動地域

なかよし学園は、日本国内に加え、アジア・アフリカ・中東を中心に、ネパール、カンボジア、ルワンダ、ウガンダ、コンゴ民主共和国、南スーダン、シリア、東ティモール、ミャンマー、ケニア等で教育支援・平和構築活動を展開している。

2.7 主な活動領域

- ・基礎教育支援
- ・教職員への教育技術支援
- ・防災教育
- ・WASH・保健衛生教育
- ・平和教育・人権教育
- ・難民・被災地支援
- ・児童生徒による国際協力型探究学習
- ・日本と海外をつなぐ CoRe Loop 型教育モデルの実践



3. 活動背景

ネパールは、2015年の大地震により甚大な被害を受け、多くの学校や地域社会が影響を受けた。現在も、災害への備え、教育資源の不足、地域間格差、教員の研修機会、実験・体験型授業の不足など、学校教育上の課題が残されている。

一方、日本もまた、第二次世界大戦後の焼け野原から教育を基盤として復興し、科学技術、ものづくり、産業、人材育成を発展させてきた。また、2011年の東日本大震災を経験し、防災教育や地域防災の重要性を学校教育の中で学び続けている。

今回のネパール教育支援活動では、こうした日本の経験を、ネパールの現場に合わせて伝えることを重視した。

本活動の目的は、日本の教育をそのまま持ち込むことではない。むしろ、限られた環境の中でも、身近な素材を使い、子どもたちの好奇心を引き出し、先生方が授業を工夫し、学びを社会の発展につなげる教育の考え方を共有することである。

ネパールの子どもたちが、学びを通じて自分自身と地域社会の未来を切り拓き、やがて国を豊かにし、平和をつくる担い手となることを目指して、本活動を実施した。

4. 活動目的

今回のネパール・ルンビニ地域教育支援プロジェクトの目的は、以下の通りである。

- ・日本の実践的教育モデルをネパールの児童生徒・教職員に紹介すること。
- ・科学実験、ものづくり、遊び、歌、絵本、手紙、教材を通じて、学ぶことの楽しさを体験してもらうこと。
- ・教職員に対して、低コストかつ再現可能な授業方法を示し、今後の授業改善に役立ててもらうこと。
- ・日本とネパール双方の災害経験を踏まえ、防災意識と災害への備えの重要性を伝えること。
- ・手洗い・石鹸・身体理解を通じて、WASH および保健衛生教育を実施すること。
- ・宗教・文化・国籍を超えた相互理解と平和教育を推進すること。
- ・日本の学校で児童生徒が作成した教材をネパールの学校で実装し、学びの循環を生み出すこと。
- ・なかよし学園とネパール教育行政・学校・地域社会との継続的な教育協力の基盤をつくること。

5. 導入した教育モデル

5.1 日本型実践教育モデル

今回の授業では、日本の教育が持つ以下の特徴を、ネパールの学校現場に合わせて紹介した。

- ・身近なものから学ぶ
- ・手を動かして考える
- ・失敗から学ぶ
- ・原理を知ることによって応用につなげる
- ・学びを生活や社会課題と結びつける
- ・教育を技術・仕事・豊かさ・平和へつなげる
- ・子ども自身が「考える人」「つくる人」「支える人」になる

授業では、高価な設備を使わず、紙、水、光、糸、石鹸、新聞紙、手作り教材、簡単な玩具などを活用した。これにより、ネパールの学校でも再現可能な授業モデルを示した。

5.2 CoRe Loop モデル

なかよし学園が実践する「CoRe Loop」は、日本と世界をつなぐ循環型教育モデルである。基本的な流れは次の通りである。

Create：つくる

日本の児童生徒が、世界の子どもたちのために教材やメッセージ、作品を制作する。

Reach：届ける

なかよし学園が、その教材を海外の学校・難民キャンプ・被災地等へ直接届ける。

Co-create：共に学ぶ

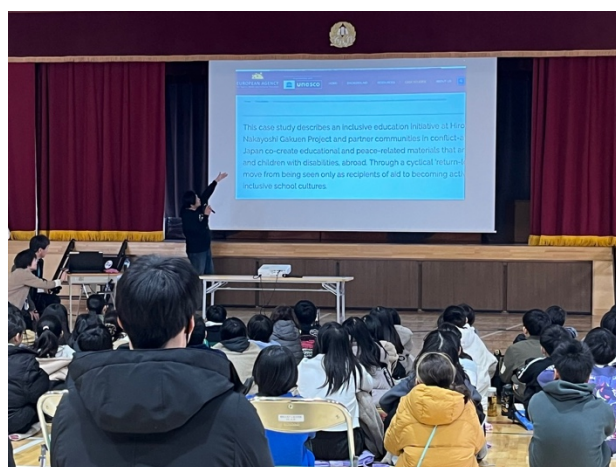
現地の児童生徒・教職員が教材を使い、学びや活動を行う。

Return：還る

現地での写真、動画、手紙、作品、感想が日本の学校へ戻り、日本の児童生徒の学びに還元される。

このモデルにより、日本の子どもたちは「自分たちの学びが世界で役に立った」と実感し、ネパールの子供もたちは「遠い日本の友だちが自分たちのために作った教材」で学ぶことができる。

これは一方的な支援ではなく、双方の子どもたちが学び合い、支え合う教育協力である。



6. 活動全体概要

6.1 実施期間

2026年5月30日～2026年6月5日

6.2 実施地域

- ・カトマンズ
- ・ルンビニ
- ・ルパンデヒ郡
- ・オムサティヤ村自治体
- ・ロヒニ村自治体
- ・シッダールタナガル周辺地域
- ・その他周辺地域

6.3 訪問先の種類

- ・公立中等学校
- ・公立基礎学校
- ・地域学校
- ・ムスリム系学校
- ・マドラサ
- ・地方自治体庁舎
- ・教育行政関係機関

6.4 直接裨益者数

写真記録および現地観察に基づく推計では、今回の活動による直接裨益者は以下の通りである。

- ・児童生徒：約 750～1,200 名
- ・教職員・学校関係者・行政関係者・地域関係者：約 70～120 名
- ・合計：約 820～1,320 名



7. 日別活動記録

7.1 2026年5月30日 カトマンズ

2019年のネパール活動時からの現地パートナーと再会し、現在も日本語学習を続けている同氏に日本の教科書を贈呈した。

また、日本の防災バッグや防災グッズを用いて、防災教育の基礎を紹介した。これは、後日ルンビニ地域で実施する学校訪問に向けた準備的活動でもあった。

実施内容

- ・2019年活動時の現地パートナーとの再会
- ・日本語学習継続者への教科書贈呈
- ・日本の防災バッグ・防災グッズ紹介
- ・防災意識と災害への備えに関する説明



7.2 2026年5月31日 ルンビニ

ブッダの聖地であるルンビニおよび周辺の世界遺産を訪問し、ネパールの歴史・宗教・文化への理解を深めた。

夕方には、政府教育担当者とミーティングを行い、翌日以降の学校訪問スケジュールを確認した。また、ネパール教育の現状について説明を受け、日本の教育、戦後復興、学びと国家発展の関係について、現地学校で伝えてほしいとの要望を受けた。

実施内容

- ・ルンビニ地域の文化・宗教・歴史理解

- ・教育担当者とのミーティング
- ・学校訪問スケジュール確認
- ・ネパール教育の現状共有
- ・日本の教育モデル紹介への期待確認



7.3 2026年6月1日 オムサティヤ地域学校訪問

1校目：Shree Duttipal Secondary School

午前、オムサティヤ村自治体1区のShree Duttipal Secondary Schoolを訪問し、模範授業を実施した。

授業の中心テーマは「戦後80年の日本の発展の原動力と教育」である。日本が戦後の困難から立ち上がり、教育、科学、ものづくり、工夫、努力によって発展してきたことを説明した。

主な授業内容

- ・岐阜県安八町立東安中学校の映像による日本の学校生活紹介
- ・浮沈子による水圧・浮力の実験
- ・ブラックライトペンによる光の授業
- ・わたあめ機による状態変化の授業
- ・兵庫県加古川市立山手中学校生徒作成のうちわを活用した日本の手作り文化紹介
- ・「thinking → technology → rich」「Science / Power / light / condition」等を板書し、思考と技術と発展の関係を説明

教育メッセージ

日本の高度成長は、単にお金や機械によって生まれたのではなく、身近なものを観察し、科学的に考え、工夫し、失敗を重ねながら新しい技術を生み出してきた教育の積み重ねによって支えられた。ネパールの子どもたちも、学びと思考によって未来をつくることができる。



2 校目：Shree Kotahi Basic School

午後、オムサティヤ村自治体 2 区パダサリ地区の Shree Kotahi Basic School を訪問し、模範授業を行った。

午前の授業と同様に、日本の戦後発展と教育の関係を説明しながら、遊びや手作り教材を用いた科学的思考の授業を展開した。

主な授業内容

- ・日本の学校生活紹介
- ・お手玉 YOYO によるゴムの弾性、慣性、力の方向、軌道予測の説明
- ・壱岐市なかよし学童制作のブンブンごまによる回転運動・モーター力学の説明
- ・手作りうちわを活用した日本のものづくり文化紹介
- ・「STUDY → technology → innovation → growing country → peace」という流れを説明

教育メッセージ

学びは技術を生み、技術はイノベーションを生み、イノベーションは国の発展につながる。そして、豊かになった社会が助け合いを実践することで、平和が築かれる。



3 校目：Shree Jana Jagriti Secondary School

午後最後に、オムサティヤ村自治体 3 区の Shree Jana Jagriti Secondary School を訪問した。

この学校では、なかよし学園の世界各地での活動紹介に加え、環境教育、失敗から学ぶ力、記憶力訓練、教材化の工夫を伝えた。

主な授業内容

- ・なかよし学園のアジア・アフリカ・中東での活動紹介
- ・長崎県対馬市の海洋プラスチック問題と対馬西部中学校の取り組み紹介
- ・リサイクルフライングディスクの紹介と体験
- ・芝浦工業大学柏中学校の模型ファン教材の紹介
- ・「回らないファン」を失敗事例として提示し、試行錯誤の重要性を説明
- ・王子台小学校 1 年生作成の絵合わせゲームによる脳トレ実施

教育メッセージ

日本の技術力の背景には、多くの失敗と改善の積み重ねがある。失敗は恥ずかしいことではなく、よりよいものをつくるための第一歩である。



7.4 2026年6月2日 オムサティヤ地域学校訪問

1 校目：ムスリム系教育施設

6月2日午前、ムスリム系学校またはモスク併設教育施設と考えられる場所で授業を実施した。

主な授業内容

- ・なかよし学園のアジア・アフリカでの活動写真を用いた世界の現状紹介
- ・お手玉 YOYO や折り紙による日本の手作り文化紹介
- ・王子台小学校からの折り紙プレゼント紹介・配布
- ・ブラックライトペンによる光の授業
- ・平和の歌「サンティ」の合唱

教育メッセージ

文化や宗教が違っていても、人は友だちになることができる。教育、歌、手作り教材を通じて、互いを理解し、平和をつくることができる。



2 校目：Shree Basantapur Dasharath Janata Secondary School

午後、オムサティヤ村自治体 4 区パルソニ地区の Shree Basantapur Dasharath Janata Secondary School を訪問した。

主な授業内容

- ・日本語の挨拶
- ・箸の使い方体験

- ・そばの試食
- ・ブラックライトペンによる光の実験
- ・わたあめ機による状態変化の説明
- ・石鹸を使った手洗い指導

教育メッセージ

文化の違いを知ることは、相互理解の第一歩である。身の回りのことに興味を持ち、学び続けることで、アイデアや発想が豊かになり、やがて社会を変える力になる。



3校目：Shree Patkhauli Secondary School

午後2校目として、Shree Patkhauli Secondary School を訪問した。

この学校では、戦争、復興、教育、防災、平和を結びつけた授業を実施した。

主な授業内容

- ・長崎県壱岐市立筒城小学校が翻訳した絵本「はじめてのヒロシマ」の紹介
- ・日本の戦争の歴史と戦後復興
- ・お手玉 YOYO による軌道の想像、練習、科学的思考の説明
- ・ブラックライトペンによる光の授業
- ・広島市立特別支援学校の平和ポスター贈呈
- ・平和の歌「サンティ」の合唱
- ・対馬市の海洋プラスチック問題とリサイクルフライングディスク紹介

・岐阜県安八町立結小学校作成の「防災 BOOK」と新聞紙スリッパを用いた防災教育

防災教育の内容

ネパールは 2015 年の大地震で甚大な被害を受けたが、子どもたちや地域社会の中には、日常的な防災の備えが十分でない状況が見られる。

日本も 2011 年の東日本大震災を経験しており、その教訓から、日本では災害に備える「防災教育」が行われていることを説明した。

結小学校の児童が作成した「防災 BOOK」は、災害時の対応や事前に備えておくものを、日本語と英語で説明した教材である。また、新聞紙スリッパは実用性に限界はあるものの、小学生が「災害に備えよう」と考え、自分たちにできることを形にした点に大きな意味がある。

現地教職員からは、「日本の小学生が防災を意識し、災害に備えるために自分たちで教材を作っていることが素晴らしい」との感想があった。

児童生徒には、次のように伝えた。

「ネパールも、いつ次の災害が来るかわからない。だからこそ、備えるという考え方を持たなければならない。」



7.5 2026 年 6 月 3 日 ロヒニ地域学校訪問

この日は、ドライバーの遅刻および車両修理の影響により、当初予定を調整し、2 校を訪問した。

1 校目：Shree Nawajeevan Basic School

午前、ロヒニ村自治体 4 区周辺の Shree Nawajeevan Basic School を訪問し、模範授業を実施した。

主な授業内容

- ・ブンブンごまによる動力・モーターシステムの説明
- ・お手玉 YOYO による力と方向の説明
- ・浮沈子による水圧・浮力の仕組みの説明
- ・折り紙による空間認識能力と創造力の育成
- ・わたあめによる状態変化の説明
- ・「学びが国を豊かにし、豊かになった後に助け合いによる平和が築かれる」という説明

特記事項

授業中、現地教員が生徒に教材の使い方を教える場面や、生徒が先生に自分の理解を伝える場面が生まれた。

なかよし学園の教育支援は、一方的に外部者が教えるものではない。先に知った人が次の人に伝え、先生も生徒も支援者も互いに学び合う形をつくることを重視している。

また、中村里英事務局長が折り鶴の折り方を先生方に伝え、先生の中には折り鶴を折れるようになった人もいた。今後、現地の先生方が児童生徒に折り鶴を教える展開が期待される。



2校目：Shree Bodwar Secondary School

午後、ロヒニ村自治体6区ボドワール地区の Shree Bodwar Secondary School を訪問した。

主な授業内容

- ・ブンブンごまによる動力・モーターシステムの説明
- ・お手玉 YOYO による力と方向の説明

- ・折り紙による空間認識能力と創造力の育成
- ・マジックシアターによる身近な科学の学習
- ・岐阜県養老町の人権教育モデル紹介
- ・人権作文集を翻訳して読み聞かせ
- ・生徒による家族へのメッセージ、平和のメッセージ作成
- ・「なかよしツリー」の制作

教育メッセージ

学びは技術を生み、技術は仕事を生み、仕事は豊かさにつながる。そして、豊かになった人が互いに助け合うことで、平和がつくられる。

今後の展開

今後、岐阜県養老町で講演会を実施する際に、養老町の児童生徒にも同様にメッセージを書いてもらい、ネパールの子どもたちのメッセージと合わせて「なかよしツリー」を完成させる計画である。



7.6 2026 年 6 月 4 日 学校訪問および自治体面会

1 校目：Shree Bagaha Secondary School

午前、ロヒニ村自治体 1 区の Shree Bagaha Secondary School を訪問した。

主な授業内容

- ・これまでの授業と同様に、日本の教育と国家発展の関係を説明

- ・ブンブンごま等によるモーターシステムの説明
- ・光の授業：「Why can we see? We need light.」
- ・世界中に友だちをつくることの重要性
- ・日本語の挨拶「こんにちは」「ありがとう」
- ・ネパール語の平和「शान्ति / Shanti」

オンライン交流

授業内で、山形県遊佐町立遊佐中学校とのオンライン通話を実現した。なかよし学園メンバーである今野大輔教諭と、現地の児童生徒・教職員が交流した。

この交流は録画され、翌6月5日に遊佐中学校の昼の放送で紹介される予定となった。

教育的意義

この活動により、ネパールの学校と日本の学校がリアルタイムでつながり、国際交流を体験することができた。これは、なかよし学園の「世界とつながる学び」を象徴する実践である。



2校目：ムスリム学校・幼児教室

2校目として、ムスリム系学校を訪問し、幼児・低学年児童を対象に、日本のものづくりや防災、手紙交流を中心とした授業を行った。

主な授業内容

- ・結小学校の防災 BOOK 紹介
- ・新聞紙スリッパの紹介
- ・日本の友だちに手紙を書く活動
- ・お手玉 YOYO による日本の遊び体験

教育的意義

幼児・低学年の子どもたちにも、日本の防災意識や手作り教材の面白さを伝えた。また、日本の子どもたちへ手紙を書くことで、国を超えた友情と表現活動の機会をつくった。



3 校目：Madrasa Kadariya Ahl-e-Sunnat Misbahul Uloom

3 校目として、ムスリム系学校・マドラサを訪問した。

主な授業内容

- ・ 芝浦工業大学柏中学校作成の「日本の紹介」ブックを使った日本紹介
- ・ 佐倉市立間野台小学校 6 年生成成の絵合わせカルタを使った記憶能力訓練
- ・ 広島県神石高原町立三和小学校 6 年生制作の石鹼を使った WASH 授業
- ・ 手洗い実践
- ・ なかよし学園校歌「LOVE OTHERS」の披露
- ・ 平和ソング「アラピヤ」をネパール語の平和「サンティ」に合わせて歌詞変更し、全員で合唱

教育的意義

この授業では、日本の複数の学校で作成された教材が、ネパールのムスリム系教育施設で実際に活用された。

日本紹介ブックは、日本の文化や生活、学びを伝える教材となった。絵合わせカルタは、遊びながら記憶力、集中力、観察力を高める教材として機能した。石鹼は、衛生教育と手洗いの実践につながった。

宗教や文化の違いを超え、教育・遊び・衛生・歌を通じて、相互理解と平和の意識を育てる活動となった。



Omsatiya Rural Municipality 表敬訪問

同日、Omsatiya Rural Municipality を訪問し、以下の方々と面会した。

- ・ Mayor Manjeet Yadav
- ・ Executive Officer Krishna Prasad Panthi

面会では、日本の奈良県広陵町の靴下を贈呈し、日本が教育とものづくりを基盤に世界競争力を獲得し、豊かさを築いてきたことを説明した。

また、これまでルンビニ地域で実施した教育支援活動について報告し、自治体関係者から大きな賞賛を受けた。

面会の意義

地方自治体との連携は、今後の継続的な教育支援活動にとって重要である。今回の面会により、なかよし学園の活動への理解と信頼が深まり、今後の協力関係構築に向けた基盤ができた。



7.7 2026 年 6 月 5 日 最終日学校訪問

1 校目：Shree Pokharvindi Secondary School

6 月 5 日午前、Shree Pokharvindi Secondary School を訪問した。

主な授業内容

- ・日本の戦後の歴史と復興における教育の役割
- ・数学的思考訓練としての「ハノイの塔」
- ・ブンブンごまやお手玉 YOYO を「システム」として捉える授業
- ・仕組みを知ることで新たなイノベーションへの気づきが生まれることの説明
- ・ブラックライトペンによる光の授業
- ・「君たちが光となり、この国を豊かに変えてほしい」というメッセージ
- ・浮沈子による力の伝導、水圧、浮力の説明
- ・身の回りの科学からイノベーションが生まれることの説明

教育メッセージ

日本の発展は、教育によって支えられた。科学は教科書の中だけにあるのではなく、身の回りに存在している。その仕組みに気づき、考え、試し、改善することで、やがて技術や産業、国の発展につながる。

ネパールの子どもたちも、自分自身が「光」となり、地域と国の未来を照らすことができる。



2校目：Jamiya Kamrun Nisha Niswa College

午後、ムスリム系女子学校・カレッジを訪問した。

主な授業内容

- ・ブラックライトペンによる光の授業
- ・マジックシアターを通じた身近な科学の面白さの体験
- ・人体の仕組みを外科学・身体理解として紹介
- ・「人間は皆同じ。だから助け合える」というメッセージ

教育的意義

女子生徒たちに対し、科学、身体理解、平等、助け合いの考え方を伝える授業となった。宗教や文化、性別にかかわらず、人間には共通する身体と命があり、互いに支え合うことができるという普遍的なメッセージを共有した。



8. 日本側連携校・教材一覧

今回のネパールプロジェクトでは、日本各地の学校・地域で児童生徒が作成した教材を活用した。

日本側連携校・地域	活用した教材・内容
岐阜県安八町立東安中学校	日本の学校生活・合唱映像
兵庫県加古川市立山手中学校	手作りうちわ
千葉県佐倉市立王子台小学校	折り紙、絵合わせゲーム
長崎県壱岐市立筒城小学校	絵本「はじめてのヒロシマ」翻訳教材
広島市立特別支援学校	平和ポスター
岐阜県安八町立結小学校	防災 BOOK、新聞紙スリッパ
千葉県芝浦工業大学柏中学校	日本紹介ブック、模型ファン教材
千葉県佐倉市立間野台小学校	絵合わせカルタ
広島県神石高原町立三和小学校	WASH 教育用石鹸
山形県遊佐町立遊佐中学校	オンライン交流
岐阜県養老町	人権作文・人権教育モデル
奈良県広陵町	靴下を通じた日本のものづくり紹介



9. 実施した教育テーマ

9.1 科学・STEAM 教育

今回の活動では、以下の教材を用いて科学的思考を育てた。

- ・浮沈子：水圧、浮力、力の伝導
- ・ブラックライトペン：光、可視化、見えないものを見る力
- ・わたあめ機：固体・液体・気体、状態変化
- ・ブンブンごま：回転、動力、モーターシステム
- ・お手玉 YOYO：力の方向、弾性、慣性、予測
- ・マジックシアター：光学、仕組み、観察
- ・ハノイの塔：数学的思考、順序、問題解決
- ・模型ファン：構造、風、回転、試行錯誤

これらの教材は、低コストで再現可能であり、教員が現地の素材を使って応用できる点に特徴がある。



9.2 防災教育

日本の東日本大震災の経験と、ネパールの 2015 年地震の経験を結びつけ、防災教育を実施した。

使用教材は以下の通りである。

- ・ 防災 BOOK
- ・ 新聞紙スリッパ
- ・ 防災バッグ
- ・ 防災グッズ
- ・ 災害時の行動説明
- ・ 日頃から備えることの重要性

主なメッセージは次の通りである。

災害は止められない場合がある。しかし、知識と準備によって被害を減らすことはできる。



9.3 WASH・保健衛生教育

広島県神石高原町立三和小学校6年生が制作した石鹸を活用し、手洗い指導を行った。

子どもたちは実際に石鹸を使って手を洗い、病気の予防、衛生習慣、命を守る行動について学んだ。

また、最終日には人体の仕組みについても紹介し、「人間は皆同じ身体を持ち、互いに助け合うことができる」という保健教育と人権教育を結びつけた授業を行った。

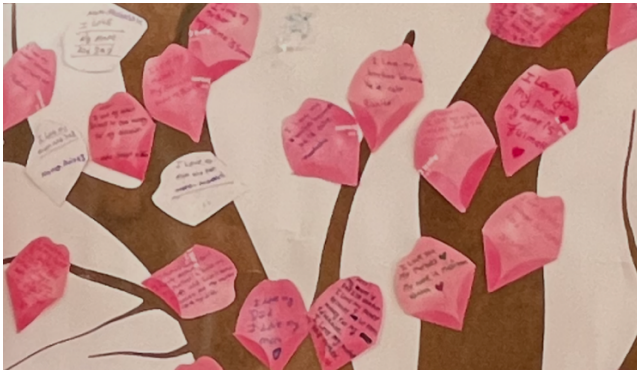


9.4 平和教育・人権教育

平和教育では、以下の教材・活動を用いた。

- ・ 広島・長崎に関する絵本教材
- ・ 広島市立特別支援学校の平和ポスター
- ・ 平和の歌「サンティ」
- ・ なかよし学園校歌「LOVE OTHERS」
- ・ 人権作文の読み聞かせ
- ・ 家族へのメッセージ
- ・ 平和メッセージ
- ・ なかよしツリー

児童生徒には、平和は願うだけでなく、学び、助け合い、相手を大切にする行動からつくられることを伝えた。



9.5 教職員への教育技術支援

本活動では、教員研修という形式だけではなく、実際の授業の中で教職員が参加し、観察し、教材を体験する形を重視した。

複数の学校で、教員が教材を使って生徒に説明する場面が生まれた。これは、なかよし学園が目指す持続可能な教育支援の重要な成果である。

外部者が一度だけ授業を行うのではなく、現地教員が授業方法を理解し、次に自分たちで教えることができるようになることが、長期的な教育改善につながる。



10. 成果

10.1 児童生徒への成果

児童生徒には、以下のような成果が見られた。

- ・ 学びへの興味・関心が高まった。
- ・ 科学を身近なものとして体験した。
- ・ 手を動かして考える楽しさを経験した。
- ・ 日本の子どもたちが作った教材を通じて、国際的なつながりを感じた。
- ・ 防災への備えの重要性を理解した。
- ・ 手洗いと衛生習慣の大切さを学んだ。
- ・ 歌や手紙、メッセージを通じて平和を考えた。
- ・ 自分たちも国の未来を支える存在であるという意識を得た。

10.2 教職員への成果

教職員には、以下のような成果が見られた。

- ・ 高価な教材や機器がなくても、魅力的な授業ができることを理解した。
- ・ 身近な素材を教材化する視点を得た。
- ・ 生徒の興味を引き出す実験型・参加型授業を体験した。
- ・ 防災、WASH、平和教育を授業に組み込む方法を知った。
- ・ 日本の教育モデルをネパールの授業改善に応用する可能性を感じた。
- ・ 教員自身が学び、次に生徒へ伝えるという循環が生まれた。

10.3 学校・地域への成果

学校および地域には、以下の成果があった。

- ・日本の学校との教育的つながりが生まれた。
- ・公立学校だけでなく、ムスリム系学校・マドラサにも教育支援を届けることができた。
- ・学校現場に新しい教材と授業方法が紹介された。
- ・防災・衛生・平和を総合的に扱う教育実践が行われた。
- ・地域自治体との協力関係が形成された。
- ・今後の継続的な教育協力の基盤が整った。

10.4 教育行政への成果

教育行政にとって、本活動は以下のような意義を持つ。

- ・低コストで展開可能な教育改善モデルを確認できた。
- ・教員の授業力向上に資する具体的手法を確認できた。
- ・防災教育、WASH 教育、平和教育、科学教育を統合した実践例を得た。
- ・日本の学校とネパールの学校をつなぐ国際教育協力の可能性が示された。
- ・地方自治体、学校、NGO が連携する教育支援モデルが示された。

11. ネパール教育発展への意義

11.1 学習意欲の向上

子どもたちは、実験、遊び、歌、ものづくり、手紙、視覚教材を通じて、強い関心を示した。これは、体験型授業が学習意欲の向上に効果的であることを示している。

11.2 教員の啓発

教員は、身近な素材を使って授業を組み立てる方法を実際に見ることができた。これは、教員研修や授業改善に応用可能である。

11.3 防災教育の必要性

2015年地震の経験を持つネパールにとって、防災教育は今後ますます重要である。日本の防災教育モデルは、ネパールの学校教育においても活用可能である。

11.4 宗教・文化を超えた教育

今回の活動では、公立学校だけでなく、ムスリム系学校・マドラサでも授業を実施した。科学、衛生、平和、友情をテーマにした教育は、宗教や文化を超えて共有できることが確認された。

11.5 日本・ネパール教育交流の発展

日本の学校で作られた教材がネパールで活用され、ネパールでの学びが日本へ還ることで、両国の子どもたちが互いに学び合う関係が生まれる。

これは、単なる国際支援ではなく、次世代を育てる国際教育協力である。

12. 今後の継続支援計画

なかよし学園は、今後もネパール・ルンビニ地域において、継続的な教育支援活動を行うことを計画している。

12.1 教員研修プログラム

今後、以下の内容を含む教員研修を実施したい。

- ・身近な素材を使った科学授業
- ・防災教育の授業化
- ・WASH 教育の授業化
- ・平和教育・人権教育の授業化
- ・CoRe Loop 型国際教育の設計
- ・低コスト教材の開発
- ・生徒参加型授業の方法

12.2 ネパール版防災教育パッケージ

日本の防災教育を参考に、ネパールの災害リスクに合わせた防災教育教材を開発する。

内容案は以下の通りである。

- ・地震への備え
- ・避難行動
- ・学校での防災訓練
- ・家庭での備え
- ・子ども向け防災 BOOK

- ・ネパール語・英語・日本語による教材化

12.3 日本・ネパール学校連携

ネパールの学校と日本の学校を結び、以下の活動を行う。

- ・手紙交換
- ・教材交換
- ・オンライン交流
- ・平和メッセージ交換
- ・日本の児童生徒によるネパール向け教材制作
- ・ネパールの児童生徒から日本へのフィードバック

12.4 WASH・保健教育の継続

石鹸、手洗い、身体理解、衛生習慣をテーマにした教育を継続し、学校での健康意識向上を支援する。

12.5 STEAM・イノベーション教育

身近な素材を使い、ネパールの学校でも再現できる STEAM 教材を開発する。

候補教材は以下の通りである。

- ・水
- ・光
- ・紙
- ・糸
- ・石鹼

- ・ 空気
- ・ 玩具
- ・ リサイクル素材
- ・ 地域資源

12.6 成果測定

今後の活動では、簡易的な事前・事後アンケートを導入し、以下の項目を測定する。

- ・ 学習意欲
- ・ 科学への興味
- ・ 防災意識
- ・ 手洗い意識
- ・ 教員の授業改善意欲
- ・ 日本との交流意欲
- ・ 平和・人権への理解

13. ネパール政府教育行政への提案

なかよし学園は、ネパール政府教育省および地方教育行政に対し、以下の協力を提案する。

- ・ 本活動をルンビニ地域における日本型教育支援モデルとして位置づけること。
- ・ 訪問校の正式情報、参加人数、活動記録の確認に協力いただくこと。
- ・ 継続支援を希望する学校の選定に協力いただくこと。
- ・ 教員研修の実施に向けた調整を行うこと。
- ・ ネパール版防災教育教材の開発に協力いただくこと。
- ・ 日本とネパールの学校間交流を推進するための窓口を整備すること。

- ・ 地方自治体、学校、NGO が連携する教育支援モデルを構築すること。
- ・ 将来的な覚書または協力協定の締結を検討すること。

14. 結論

今回のネパール・ルンビニ地域教育支援プロジェクトは、日本の教育モデルがネパールの児童生徒・教職員に対して、学びの面白さ、科学への関心、防災意識、衛生意識、平和への思いを体験的に伝えることができることを示した。

子どもたちは、ブンブンごま、お手玉 YOYO、浮沈子、ブラックライトペン、わたあめ、ハノイの塔、マジックシアター、手紙、歌、絵本、石鹸などを通じて、学びが生活や社会とつながっていることを体験した。

教職員は、限られた環境の中でも、工夫次第で子どもたちを引きつける授業ができることを実感した。

日本は戦後の復興において、教育、科学、ものづくり、人材育成を基盤として発展してきた。ネパールもまた、教育を通じて子どもたちの可能性を伸ばし、地域社会と国の未来をつくることができる。

なかよし学園は、ネパールの子どもたちがこの国の「光」となり、先生方がその光を導く存在となることを願っている。

今後も、ネパール政府教育関係機関、地方自治体、学校、教職員、地域社会と連携し、継続的な教育支援、教員研修、防災教育、WASH 教育、平和教育、日本・ネパール学校交流を推進していく。

付録1 主な訪問校・訪問機関

以下は、現地記録および写真に基づく訪問先一覧である。

- ・ Shree Duttipipal Secondary School
- ・ Shree Kotahi Basic School
- ・ Shree Jana Jagriti Secondary School
- ・ Muslim-related Educational Institution
- ・ Shree Basantapur Dasharath Janata Secondary School
- ・ Shree Patkhauli Secondary School
- ・ Shree Nawajeevan Basic School
- ・ Shree Bodwar Secondary School
- ・ Shree Bagaha Secondary School
- ・ Muslim School / Early Childhood Classroom
- ・ Madrasa Kadariya Ahl-e-Sunnat Misbahul Uloom
- ・ Shree Pokharvindi Secondary School
- ・ Jamiya Kamrun Nisha Niswa College
- ・ Omsatiya Rural Municipality Office

付録2 使用教材一覧

- ・ 浮沈子
- ・ わたあめ機
- ・ ブラックライトペン
- ・ お手玉 YOYO

- ・ブンブンごま
- ・折り紙
- ・マジックシアター
- ・ハノイの塔
- ・手作りうちわ
- ・模型ファン
- ・防災 BOOK
- ・新聞紙スリッパ
- ・防災バッグ
- ・石鹼
- ・絵合わせカルタ
- ・日本紹介ブック
- ・平和ポスター
- ・広島・長崎関連絵本教材
- ・人権作文
- ・なかよしツリー
- ・LOVE OTHERS
- ・サンティソング

付録3 児童生徒へ伝えた主なメッセージ

- ・学ぶことは、人を豊かにする。
- ・学ぶことは、国を豊かにする。
- ・科学は、身の回りにある。

- ・技術は、好奇心から生まれる。
- ・失敗は、イノベーションの始まりである。
- ・災害はいつ来るかわからない。だから備える。
- ・手を洗うことは、命を守ることである。
- ・人間は皆同じ身体を持っている。だから助け合える。
- ・先生は子どもたちを導く光である。
- ・子どもたち自身も、ネパールの未来を照らす光になれる。
- ・平和は願うだけでなく、行動によってつくられる。
- ・日本とネパールは、教育で友だちになれる。

付録4 提出団体連絡先

特定非営利活動法人なかよし学園プロジェクト

代表理事：中村雄一

事務局長：中村里英

所在地：日本国 千葉県松戸市

E-mail：peace.office@nakayoshigakuen.org

Website：https://nakayoshigakuen.org